

(A男のつらさを受け止めながら、自信を回復させる面接へとすすんだ。)

「A男は何にでも一生懸命だもんなあ」

「……『でも』、どうしたの」

「……笑うヤツがいたりすると、いやになるよねえ」

「……そう、『またやってみよう』って、少し、元気が出てきたのかなあ」

「でも、……」

「……一生懸命やると……笑うヤツがいたりして……」

「(かなり長い沈黙)……でも、このごろまたやってみようかなあって、思うんです……(沈黙)」

「(長い沈黙)………あんまり我慢していると、………やっぱり、………おれはおれだからなあ………」

執拗に繰り返されるいじめによって次第に我慢の極に追い込まれていったA男が「嫌だ」となかなかいえずに自分一人で抱え込んでいたつらさを受け止めることに努めた。さらに、「先生たちは君の味方だよ」という気持ちを伝えて、心の落ち着きと自信を取り戻させるように努めた。

#### 【B男たちへの指導援助】

##### [B男との面接]

《生徒指導係・担任》

「そうか、自分の学級がおもしろくない」

「………A男がまじ

《B男》

「そう、おれなんか何やっても、相手にされねんだ。A男なんか、まじめくさっててよ。おもしろくねえ」

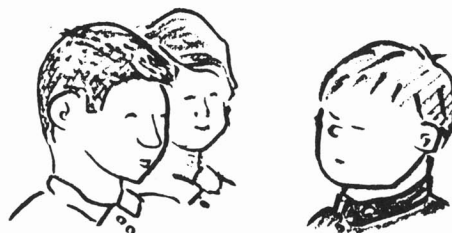
「んだあ、みんなお

めで、おもしろくない………」

「う～ん、おもしろくないから、A男を困らせたっていうことかなあ………」

もしろくねえって思ってるよ。みんな………」

「………うう～ん、だって、何にもおもしろいことなんかねえし、でも………(沈黙)」



生徒指導係が中心になり担任とともに、B男たち3人から一人ずついじめの事実を確認しながら話を聴き、それぞれの不満を受け止めることに努めた。さらに、A男の気持ちを思いやりながら自分の行動を見つめさせることに努めた。

#### 【学級への指導援助】

##### \* 授業を行う教師の心構え

生徒一人一人の自己存在感が満たされていないという気持ちが、いじめの一要因になっていると考えられるので、授業の中で一人一人の考えや意見を大切にするように努めた。授業は各教科担任の協力が必要なので、学年会で共通の取り組みが行われるように次の3点を確認した。

- その子の持ち味を違いと認め、一人一人の答えを大切にする。
- 姓名で指名し、番号や「その前・後・隣」という指名は避ける。
- 一人一人の名札を準備して、授業の中で全員の名札を貼付し一人一人を認め励ますようにする。